



京都 YWCA

3 2015

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」シリーズ公開講座 3

—キリスト教の視点から考える—

「共に生きる」思想の実践をめざす意味

1月31日、京都YWCAに京都キリスト教福祉会前理事長の岡山孝太郎さんをお招きし、講演会「キリスト教の視点から考える——「共に生きる」思想の実践をめざす意味」を開催しました。岡山さんは丁寧に情熱をもって、「共に生きる」ことについてお話されました。以下、講演の要旨をお伝えします。

「死の喪失」と格差社会

超高齢社会が進むにつれ、一番問題になってくるのが「死ねない」ということ、「死の喪失」です。かつては死には尊厳がありましたが、今、死は飾り立てられ、死の本当の厳しさが忘れられています。死を真剣に考えるとき、人は生きることにも必死になってくるのです。

漫画家山野車輪氏は、高齢者が若者に寄生しているとして『若肉老食』と表現し、高齢者をパラサイトシルバーとまで言っています。今、トマ・ピケティ氏による『21世紀の資本』という本が話題になっていますが、その中で、ピケティ氏は拡大し続ける格差の問題を取り上げ、「再分配」の必要性を訴えています。子どもの貧困が問題化する社会において、「共に生きる」という思想を実践するとはどういうことでしょうか。それは新しい人間像を創り上げることです。



講演する岡山孝太郎さん

「共に生きる」ために

「共に生きる」こと、つまり誰かと一緒に生きることは特別なことではなく、かつては普通のことでした。しかし人間関係が希薄になり、その当たり前がなくなっている今、私達はその現実をどう組みなおして「新しい人間像」を創るのか、という課題に直面しています。聖書には、「新しく生まれること」（カイノス）が大切だと書かれています。その「新しさ」というのは、全くの未知の新しさではなく、「誰かの持っている何か」と「自分の古い良いもの」を組み合わせる、という意味なのです。それだったらなんとかなるかもしれない、その予感が人を動かすのです。

障がい児教育を行っているびわこ学園では「この子らを世の光に」という理念を掲げています。これは障がい児だけの話ではありません。今や病気や老いによって誰もが障がい者になります。「弱さこそ聖なるもの」を新しい旗印として、人々は弱さの前で頭を垂れなければなりません。

そのためには二つのことを考える必要があります。一つ目は「人権」についてです。石牟礼道子氏は『苦海浄土 わが水俣病』で、「往生できない不条理」と書いています。その「不条理」を脱して、誰もが人間らしく生きられる社会の在り方を考えなければなりません。二つ目は「平和（シャローム）」の問題です。「シャローム」が挨拶のイスラエルは、今も戦争を続けています。日本はこの70年、平和憲法のおかげで戦争を行っていません。これは世界の歴史で今までになかったことです。しかし、今その流れが止められようとしています。こうした状況を危惧する思いを運動化していくことが必要です。そして、そのような運動を展開していく「組織」は、宮大工が様々な特性を持った木をその特性を活かしつつ組み合わせるのと同じように、様々な人々が、一人ひとりが活かされつつ協働できる組織でなければなりません。

(平岩ともし)

福島を訪問してきました！



1月15日（木）、福島YWCA主催の「Y'sカフェ」を訪問してきました。3月に京都で予定している保養プログラムの説明会も兼ねての、私にとって初めての福島の旅でした。

「Y'sカフェ」はお母さんたちがほっと一息ついて軽食を囲んでお話をする場です。今回はそこに私が焼いたクッキーと、ハーバルセラピスト星野利彰さんが寄付して下さったハーブティーを持参しました。また、京都YWCAの名物指圧師山本順三さんをお連れして、お母さんたちに指圧を施してもらいました。お菓子もハーブティーも指圧も、とても好評でした。



「Y'sカフェ」の様子

「Y'sカフェ」前日の夜は京都YWCAの保養キャンプに参加した、菅野光恵さん親子のお家に泊めていただき、久しぶりの再会と交流を楽しみました。菅野邸のお庭には除染された土壌がビニールシートで覆われていました。いまだに除染されていない地域もたくさんあるそうです。また、菅野さんの案内で福島市内にある土壌の集積場を見たときには正直「気味悪さ」を感じました。そのすぐ後ろにあった公園は放射線量が高く、原発事故後は花見もできなくなりましたが、去年あたりから普通に花見をする人たちもでてきたそうです。途中何度か放射線測定をしている作業員の方たちの姿を目にしましたが、マスクも何もしていませんでした。

カフェ開催場所の「カーロふくしま」の周辺の放射線量を測定しました。0.2～0.9マイクロシーベルトという数値を目の当たりにして、菅野さんはじめ参加者のお母さんとその家族はここで生活し続けていくんだと思うと、複雑な気持ちになりました。

この訪問を通して、福島との関わりは京都YWCAにとっても、また保養に参加した子どもとその親たちにとっても、互いに支え合い、励まし合い、未来を切り開いていく小さな一歩になっていることをとても強く感じ、確信できました。そして福島がさらに近い存在となり、また再会と交流が待ち遠しくなるような実り多き旅でした。

(木戸さやか)

お待たせしました。

「スリフトセール」をよろしく！



40年の歴史を持ち、京都YWCAにおいて、なくてはならない活動「スリフトショップ」は、会館の改装にともない惜しまれながらも終了しましたが、新たな担い手のもと、その精神を受け継ぐ「スリフトセール」が12月よりオープンしています（開催は第三土曜日）。「もったいない精神」を生かした「資源の活用」とゴミ減らしを目的としています。新たな出発にあたり、その趣旨を内外の方々に今一度知っていただき、充実した内容の活動にしていきたいと考えています。



寄贈していただいた品物は、京都YWCAを経由して、それを今必要としている使い手によってあらたな命が吹き込まれます。そんなイメージが共有されればと思っています。さらに、この活動で得た収益が、京都YWCAの様々な活動に役立っていることを知っていただきたいと思います。

寄贈していただいた品物は、京都YWCAを経由して、それを今必要としている使い手によってあらたな命が吹き込まれます。そんなイメージが共有されればと思っています。さらに、この活動で得た収益が、京都YWCAの様々な活動に役立っていることを知っていただきたいと思います。

(弘中奈都子)

寄贈品の受け取りは、第1・第3金曜日、第3土曜日（11時～15時）です。受け取り可能な品物の種類は、事務所またはホームページ（<http://kyoto.ywca.or.jp/support>）でご確認ください。

📖 オススメです！

部落解放 696号
増刊号「第40回
部落解放文学賞」

解放出版社
1,000円＋税



京都YWCA会員で多言語電話相談 Asian People Together (APT) の多文化共育プログラムで活躍されている孫美幸さんが第40回部落解放文学賞を受賞されました。この賞は、反差別と人権の拡大をめざし、ひとびとに生きる希望をあたえる作品を選んでいきます。

在日コリアンの父親と韓国釜山出身の母親を持つ孫さん家族の訪韓のエピソードを軸に、韓国での留学時代、中学校での人権学習、2つの名前のことなど、孫さんが日々の暮らしの中で感じられていることが綴られています。国籍に対する親戚の意見や日韓関係など大人の事情は複雑だけれど、孫さんのお子さんと小さなお友達たちのやりとりには希望の光がさしています。

なお、この本は京都YWCA本館ロビーにあります。ぜひ、ご一読ください。

(岡佑里子)

2.11 集会報告

「建国記念の日」とは私たちにとって何か

2月11日は、建国記念の日として国民の休日ですが、京都YWCAはこの日を休日としていません。今年は、小柳伸顕さん（日本キリスト教団牧師、釜ヶ崎キリスト教協友会）をお招きして「建国記念の日は私たちにとって何か」をテーマに集会を持ちました。

建国記念の日は、日本書記記述から神武天皇が即位した日である紀元節として1872年に設定されたもので、1889年の2月11日に「大日本帝国憲法」制定記念の祝賀が行われたことで定着した日だといわれます。国民学校2年生の時に敗戦を迎えた小柳さんは、戦争中の紀元節の式典での様子や疎開先での暮らし、米がなくジャガイモやカボチャ、フスマ（小麦の外皮）等ばかりを食べていた戦中戦後のひどい食糧事情、また敗戦直後の進駐軍がやってきた街の様子、教科書を破ったり、墨で塗りつぶしたりした学校現場の出来事など、ご自身の体験を話されました。

それほどまでに学校教育の内容を変えざるを得ない状況をもたらした戦争『大東亜戦争』は、どのような戦争だったのかをグループごとに配布された資料（『大日本国憲法』、『大東亜地理読本；昭和17年発行』、新聞記事抜粋等）を使い検討しました。そこからは、紀元節に即

位したとされる天皇の下での「大東亜共栄圏」の確立が大きな戦争の目的であったことが分かります。開戦当初に攻撃したマレー半島、スマトラ、ボルネオ島等の豊かな資源の獲得も目的でした。そして310万人の日本人と、2000万人のアジアの人々が犠牲となったことも

あらためて確認しました。2番目のテーマ「戦争と教育」については、学校教育では近現代の日本の歴史を詳しく学習することが少なく、子ども世代の戦争認識がどのように形成されるかが問題であること、学校教育はもとより、社会教育の場である地域の団体や教会、私たちYWCAの役割が大きく問われていることを実感しました。

終始小柳さんの優しい雰囲気のもと、学校で社会科の授業を受けている感覚で進み、様々な事を考えさせられる集会でした。

（編集部）



講演する小柳伸顕さん

シリーズ ～京都YWCA多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり～

自立援助ホーム「カルーナ」がいよいよスタートします



カルーナ運営委員会

自立援助ホーム「カルーナ」は、2015年4月の運営開始に向けて、さまざまな準備を進めています。多くの方からのご協力をいただきながら、定員6名の少女たちが生活の場とするために必要な家具や生活用品などを、各個室とリビング・ダイニングなどの共用スペースに設置を始めています。また4月からのスタッフの採用を決定し、入居案内や「生活のしおり」の作成、ボランティアの受け入れ方などについて協議を進めています。

昨年11月14日には京都YMCAとの合同企画として、『難民高校生～絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル～』（英治出版）の著者である仁藤夢乃さんの講演会を実施しました（報告記事は京都YWCA機関紙1月号に掲載）。居場所をなくした女子高生たちと関わる機会の多い仁藤さんにも、作成中の「カルーナ」の入居案内に対してご意見をいただきました。

また今年度はWAM（独立行政法人福祉医療機構）より助成金をいただき、対象児童に対する理解を深めるた

めの関連講座を実施しています。今年1月と2月には連続学習会として、滋賀県の自立援助ホームBiTS-Unitのホーム長をされている廣田敬史さん、社会福祉法人積慶園の相談員をされている桑畑祐治さん、京都教育大学特別支援教育臨床実践センター教授の相澤雅文さんにそれぞれお話をいただきました。また2月28日には、「カルーナ」の開所に先立って、NPO法人子どもセンター「ののさん」の理事長、安部千秋さんによる講演会を実施しました。

自立援助ホーム登録のための手続きや、各地での広報活動を通して、少しずつ行政や関連団体とのつながりもできつつあります。「カルーナ」の運営を資金面からサポートする後援会員も少しずつ増えてきました。（後援会員は継続して募集中です。お問い合わせください。）まだまだ課題は山積みですが、「カルーナ」で生活していく少女たちの「居場所」となるホームづくりを進めていきたいと思っています。

今後のプログラム

◎えいごカフェ

いろいろな人と英語で話してみませんか？

- 日 時：2015年3月20日(金) 18:30～20:30
- 参加費：500円(ワンドリンク付き)外国人、留学生無料
- 申 込：不要

◎大人のための修学旅行

「米軍基地が建設された京丹後市宇川ってどんなところ？」

- 日 時：2015年3月22日(日) 8:30～19:30頃
- 集合・解散：京都駅八条口
- 行 程：道の駅「和」→伊根町→米軍基地建設地→宇川温泉「よし野の里」→道の駅「てんきてんき丹後」
※米軍基地建設地にて「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」の方からお話を聞きます。
- 参加費：7,000円(交通費、昼食代含む)
- 定 員：25名
- 申 込：要 3月14日(土)まで

◎ユースミーティング

春の京都でユース(若者)同士、交流しませんか？途中参加もOK！

- 日 時：2015年3月28日(土) 14:00～20:30
- 参加費：500円+夕食代(お茶菓子付き)

◎春休みキッズデイアウト in ガジュマルの樹

工作やクッキング、遠足、平和について考えるプログラムなどをします！

- 日 時：2015年3月30日(月)・31日(火)
・4月2日(木)・3日(金)
10:00～17:00
- 対 象：小学1～6年生
- 参加費：1日参加2,000円、全4日参加7,000円
- 定 員：20名
- 申 込：要

ご寄付ありがとうございました。

2014年12月1日から2015年1月31日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

岡宥子、マーサメンセンディーク、森律子、大島博子、辻野茂子、山村茂代、中井和子、鍛冶富美子、上村愈巳子、清水義、魚木アサ、中村和雄、伊藤美子、イエニックふたみ、岡佑里子、平野富希、片桐ユズル、山名紳一郎、山名敦子、クリスマス集金献金、匿名2名

各指定寄付

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業にむけた改修募金

吉田紀子、宗真理子、有田佳子、宮武美知子、山村茂代、出店都、森克子、荒垣加津子、中村美智子、織田雪江、諫早道子、臼井一美、片桐ユズル、飯謙、中村信博、入順子、入治彦、坪野彰、坪野恭介、山本峻、国則美瑛、安藤いづみ、

堀部和彦、堀部文子、小寺敬子、同志社女子高等学校、匿名1名

*福島プロジェクト

安藤いづみ、岡佑里子、菅谷菜穂、木戸さやか、バザー来場者、東山教会、匿名、福島プロジェクト有志

*親・子育て支援活動委員会

平野富希、木戸さやか(親子ライブラリーへ)
山地麻衣子(親子ライブラリーへ)
親・子育て支援活動委員会有志

*APT

上内英子、希望の家カトリック保育園、林律、金児明子、嶋川まき子、杉山知子、堀口明美、大西澄子、上原従正、北垣由民子、高山亨、上島良彦、上村愈巳子、北村保子、木戸さやか、ヌヴェール愛徳会 安藤敬子、上原有美、岡佑里子、小澤巨、飯田奈美子、安藤いづみ、宇山進、西原美那子、大津健一・恵子、ノートルダム教育修道女会、京都・東九条CANフォーラム、ヌヴェール愛徳修道会、

平安女学院中学・高校チャプレン室、APT合宿参加者有志、匿名1名

*国際委員会

宮武美知子、小寺敬子(国際、洛楽へ)、匿名1名(洛楽へ)

*平和委員会

堀部碧、菅谷菜穂、木戸さやか(スウォンププロジェクトへ)

*活動グループ連絡会

エコ・ド・Y有志(エコ・ド・Yへ)

*次世代プロジェクト委員会

次世代プロジェクト委員会有志

*ふれあい食堂「うららかふえ」運営委員会

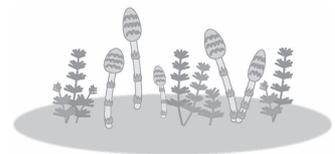
神原喜久恵、宮武美知子

*自立援助ホーム カラーナ

中野加奈子、平野富希、木戸さやか、小川久美子、水野篤夫、今村武廣、眞下正己、臼井一美、岡佑里子、橘ひろ子、小寺敬子

1・2月/理事会報告

- 3/4期決算(1月末)から2014年度末見込みについて共有し、その対策について協議した。今後、南側駐輪場にサマリア館への入り口アプローチ設置の工事や、大型倉庫の購入、AEDの購入・設置などを検討。
- 2015年度予算案について協議した。同時に、2015年度の「会館改修および新事業のための募金」について協議。(来年度、チャリティイベント(コンサート)を企画予定)
- 「カラーナ」の4月1日受け入れ開始に向けて準備中。「カラーナ」担当職員を新たに雇用する。
- 「サラーム」が、12月末で定員になった。(問い合わせは継続受付中)
- 3月末に「あじさい寮」入寮生が新しく来日。「第2期すけっと」募集中。
- 2015年度バザー実行委員会を3月に立ち上げる。
- 「うららかふえ」の2015年度ボランティア登録に向けて、3月に研修&交流会を予定。「かふえ」のショップカード制作中。ランチ&コーヒーチケットの販売開始。
- 年度末3月の春休み期間の予定プログラムを確認。(春休みのガジュマルの樹、福島中高生のリフレッシュプログラム、ユース交流会、親子で楽しむ「ブチ春祭り」など)



KYOTO YWCA No.525

2015年3月号(3月1日発行)

発行人 上村愈巳子
発行所 公益財団法人京都YWCA
京都市上京区室町通水上ル
電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352
e-mail office@kyoto.ywca.or.jp
URL http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替 01080-9-1566
口座名義 (公財)京都YWCA
定 価 50円